

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																															
分野	認定課程名		認定学科名			専任士	高度専任士																														
工業	工科技術専門課程		ロボット科			平成27年文部科学省認定	-																														
学科の目的 デジタル技術の進歩によって、私たちの周りにはコミュニケーションロボットや、パーソナルロボットと呼ばれる今までになかった新しいタイプのロボットが次々に登場しています。かつては、工業用に限定されていたロボットの用途が多様化し、ロボットは産業界を牽引する大きな可能性を持っている分野として強く期待されています。本学科は、産業界からの意見をカリキュラムにフィードバックをして、産学連携プロジェクトや特別講義、ロボット競技会などから、実践的な技術が身に付くようなカリキュラムを用意し、「ロボットを創る(製作)、操る(制御)、楽しむ(応用)」を基本コンセプトにロボットについてあらゆる角度から学ぶ学科です。ロボットを製作し、制御し、応用するという明確な目標の中で、電子・機械など様々な工学技術、情報技術(IT)の実践的なノウハウを体得し、工業、情報、サービスなど広範な産業界に貢献しうる人材を育成します。いま注目のAI(人工知能)やIoT(Internet of Things)などの技術と活用についても理解を深め、今後エンターテインメントや福祉・介護をはじめ医療やメンタルヘルス・リハビリテーションといった人間と共存するシーンで活躍するロボットのエキスパートを養成します。																																					
認定年月日		平成26年3月31日																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
	2年	昼間	1,710	780	0	1,110	0	60																													
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																														
80人		70人		5人	3人	1人	4人																														
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S:90点以上 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下不合格 P:単位認定																															
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月7日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月19日～3月31日			卒業・進級条件		【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 全国専門学校ロボット競技会 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 展示会出展、展示会見学、スポーツ実習 など ■サークル活動: 有																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 川崎市 技術職員、リンテック、ティー・エス・ジー、国産機械、アトム精密、プライムエンジニア 他			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																															
	■就職指導内容 学内個別企業説明会、内定者体験談会、ものづくり企業交流会、八王子ものづくり魅力発見ツアー 就職ガイダンス及び学内企業説明会を実施キャリアサポートセンターと連携して全体指導及び個別指導を実施					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産業用ロボット特別教育(検査・教示)</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定(2級・3級)</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>高所作業車特別教育</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>墜落制止用器具特別教育</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>品質管理検定</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>アーク溶接特別教育</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	産業用ロボット特別教育(検査・教示)	③	30人	30人	ビジネス能力検定(2級・3級)	③	31人	31人	高所作業車特別教育	③	18人	18人	墜落制止用器具特別教育	③	19人	19人	品質管理検定	③	39人	36人	アーク溶接特別教育	③	21人	21人
	資格・検定名	種別	受験者数			合格者数																															
	産業用ロボット特別教育(検査・教示)	③	30人			30人																															
	ビジネス能力検定(2級・3級)	③	31人			31人																															
	高所作業車特別教育	③	18人			18人																															
墜落制止用器具特別教育	③	19人	19人																																		
品質管理検定	③	39人	36人																																		
アーク溶接特別教育	③	21人	21人																																		
■卒業生数 : 39 人 ■就職希望者数 : 22 人 ■就職者数 : 22 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 54 %			①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																		
■その他 ・東京工科大学編入学:6人 ・他大学編入学:5人 ・専門学校進学:1人			■自由記述欄																																		
(令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																					

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 8名 ■中退率 9%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者88名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者80名(令和4年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 学成績不良、体調不良等療養治療、進路変更</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <p>【片柳学園入学金免除制度】 学校法人片柳学園の設置する学校の卒業生の子女、兄弟姉妹および孫、または在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度</p> <p>【若きつくりびと奨学金制度】 社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付する制度(成績優秀者特待生・課外活動優秀者特待生・資格特待生・就学支援奨学金・再進学特待生・留学生特待生)</p> <p>【再入学優遇制度】 日本工学院専門学校または日本工学院八王子専門学校の二年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科への再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除、および審査により授業料等を減免する制度</p> <p>【留学生特別給付制度】 私費留学生の出願者全員を対象とし、入学選考試験の成績優秀者には進学支援として、入学金の一部または全額を免除する制度</p> <p>【ミュージシャン特待生】 ミュージックアーティスト科に特待生として出願し、試験に合格された方は、入学費用のうち入学金を免除する制度</p> <p>【サッカー・テニス特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって以下のいずれかを免除する制度(入学手続時納入金免除、入学費用のうち前期授業料免除、入学費用のうち入学金免除、入学費用のうち入学金の一部を免除)</p> <p>【スポーツ特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制・スポーツトレーナー科・スポーツトレーナー科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって入学費用のうち入学金または入学金の一部を免除する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accrreditation/</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>https://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
ロボット技術に関わる企業等へのヒアリングを適時実施し、ものづくりの実務に関する知識・技術を調査してカリキュラムに反映させる。さらに、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を検証することにより実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
板羽 昌之	一般社団法人 環境ロボテクス協会 理事長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	①
林 健治	ステラ技研株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
鈴木 隆史	株式会社栄铸造所 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
高地 昭彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年9月6日 15:00～17:00

第2回 令和4年3月7日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員会では以下の意見をいただく

「学習内容が「ものづくり中心」になっているが、営業側の立場からすると、サービス、オペレーション、客に売り込む、といったような学習行い、ものづくり技術と並行して、営業的な技術も身につける内容を取り入れる。

開発する立場からすると現場ではシステム全体を考えて、システムが意味があるのか、他の手段がないのか、この方法が一番良いのかなどを考える学習内容。コストなども含めて全部作りこみ、万が一失敗した場合のバックアップも視野に入れて開発している。次に進めるための必要十分条件を検討することで、自信をもって開発できるようにすることが重要。即戦力としての力も必要だが、企業が教えていけばいいことでもある。まずは自分が好きであるものをみつけること。好きゆえに貪欲に学ぶ前向きな気持ちがあればスキルはあとからついてくる要素もある。どんなに優秀でもそこがないとなかなか難しい。」

今後も企業連携を通して企業のニーズと学生のスキルを向上させるためにも学習成果をフィードバックし改善に取り組む

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

株式会社ロボットライドとの連携は、AIとIoT技術やリアルタイム制御などをロボット技術の応用に実用的面から他の科目との連動及び数学的思考と論理思考力を鍛える学習内容のアドバイスと自立型ロボット製作による学生作品へのレベルが向上していると評価をいただく。

株式会社アトム精密との連携は、ロボット製作実習でアルミ板加工における板金組立の仕上がりに関して学生の作品の向上とデザインの高さを評価される学習内容についてアドバイスをいただく。

その他、「多摩地域 産学連携」と題し、八王子近隣企業と連携して、キャリアデザインや問題発見・問題解決の実習や特別講義などを実施し、その成果について評価を受ける。

- ・「多摩地域 ものづくり企業 交流会」 多摩信用金庫、多摩地域中小企業
- ・報告意見交換会 HFA (Hachioji Future Association)
株式会社浜野製作所 (大型ロボット風神整備改良)

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
エレクトロニクス1	ロボットを動かすために必要な、エレクトロニクス技術について学びます。直流回路や交流回路、静電気など基本技術を学びます。またトランジスタやICなどの半導体技術について	株式会社パステルマジック
ロボット製作実習3	卒業製作としての位置付けで高度な機能を持ったロボットの設計と作り方について実習し、実際にロボットについて特別講義と指導。	株式会社ロボットライド
ロボット制御実習3	基礎を身に付けた上で、より実践的な技術、ロボットを動かすプログラムなどについて特別講義と指導。	株式会社ロボットライド
ロボット製作実習2	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎と応用の具体例について特別講義と指導。	株式会社アトム精密
テクノロジー実習1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を具体例について特別講義と指導。	有限会社岩沢プレス工業

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施または、研修参加教員から情報共有することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「標準Ethernet規格を拡張したフィールドネットワークを利用したファクトリーオートメーション」
(主催: ソフトサーボシステム株式会社)

期間: 令和3年8月18日(水)

対象: テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)

ソフトモーション技術をベースに各種産業装置メーカーでWindowsPCのマルチコアCPUを利活用し高精度な多軸高速制御とマルチネットワーク制御機能におけるファクトリーオートメーションシステムについて最新の知見を得る。

研修名「車載向け5Gソリューション」

期間: 令和4年1月28日(金)

対象: テクノロジーカレッジ教員を対象

自動運転やIoTを支える技術として高速移動における自動車で5Gを使用する場合にフェージングやトンネルなどで電波の遮蔽といった環境要因による通信速度低下または自動車固有の受診性能の影響について知見を得る。

研修名「DX加速に向けた政策展開」

期間: 令和4年1月28日(金)

経済産業省が2018年DXレポートと2020年にDXレポート2を公開し日本企業のDXが思うように進んでいないことに警鐘を鳴らすとともに中小企業の人手不足を解消する手段としてDXが重要であることと、ロボットに利用と業務自動化システムの構築が急務であり、いわゆる「2025年の崖」を克服する必要性について知見を得る。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第7回こども発達支援研修会～LDを抱える子への学習支援～」

(連携企業等: 一般社団法人こども発達支援研究会)

講師 一般社団法人こども発達支援研究会理事 前田 智行氏

期間: 令和4年3月11日(金)

発達障害児支援における学習障害についてADHD、ASD、自閉症に比較して行動面での問題が少ないため学校でも見過ごされる事例が多く、学習支援に関する専門家の人材育成が急務であることと、発達障害を専門医師が様々な視点から数値化して判断している。また、視覚機能が低いことが「板書に時間がかかる」や「教科書を読むときに字や行飛ばし」が発生している場合は発達障害の原因であると知見を得る。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「精密加工板金加工技術」

(連携企業等: 有限会社岩沢プレス工業)

期間: 令和4年度中 実施予定

対象: テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)

精密加工板金技術と生産管理を含め製品の取り扱い方法について高い技術を持っている。ロボットの筐体で使用される精密板金加工技術を担う人材育成に必要な課題を学ぶことを目的とする。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生相談・学生対応とその支援」

(連携企業等: 調整中)

期間: 令和4年度中 実施予定

対象: テクノロジーカレッジ専任教員(ロボット科専任教員)

昨年度は学習障害について学ぶ。学生支援のニーズも多様化しており、学生達が学習をするうえで学校がどのような支援をする事が求められているのか、またどのように対応するべきであるかを具体事例から、学校・カレッジ・学科・教員単独といった様々な階層での支援方法や現状を検討する事で、より良い学習環境を提供すると共により適切な指導力の向上を目的とする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 運営方針(3) 事業計画(4) 運営組織(5) 人事・給与制度(6) 意思決定システム(7) 情報システム
(3) 教育活動	(8) 目標の設定(9) 教育方法・評価等(10) 成績評価・単位認定等(11) 資格・免許取得の指導体制(12) 教員・教員組織
(4) 学修成果	(13) 就職率(14) 資格・免許の取得率(15) 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16) 就職等進路(17) 中途退学への対応(18) 学生相談(19) 学生生活(20) 保護者との連携(21) 卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25) 学生募集活動(26) 入学選考(27) 学納金
(8) 財務	(28) 財務基盤(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関連法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護(34) 学校評価(35) 教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36) 社会貢献・地域貢献(37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について

評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

・コロナ禍の予測不能の事態や学生への対応が実に丁寧になされ成果を上げていることが理解できました。理事長を先頭に新たな取り組みも着実に進められていることに敬服します。

・SDGsに関連する学校としての取り組み。実質、関連項目や実施している事はあるかもしれないが、説明のなかで「SDGs」という言葉が出てこなかったのも、関連する内容には入れても良いと思います。

・各分野において情報は常に更新されているので、教職員の方々の知識・情報もアップデートが重要と考えます。月1回の研修の成果・効果を確認するような取組も検討してはいかがでしょうか。

・コロナ禍において情報の収集・管理については難しい点も多いと思いますが、校友会・卒業生就職先とのコミュニケーション強化に努めていただければと思います。

・既に検討されていることと思いますが、保護者会もオンラインで開催するなど遠方でも参加できるような取組をされてもいいかと思えます(環境によってオンラインが難しい場合などは個別に電話対応など。すでに実施されていたらご容赦下さい)。

・コロナ禍及びワクチン接種も個人の考えで必須に出来ない中、日本工学院八王子専門学校様の対応を含めた活動は非常に参考となり、勇気もらえるものでもありました。政府が明確な線引きをしていない現状では、企業も学校も探りさぐりにはなっていますが、多角的な面で情報交換を行い、この状況を乗り切っていければと思います。

・丁寧なご説明有難うございました。コロナ禍において、教育目標に掲げる「スチューデントファースト」を実現することは容易ではないと思えますが、製作室や実習等の新設などの取組によって学生のモチベーションが上がることを期待します。また、私はテレビ技術会社の採用担当として、貴校からの応募者と毎年向き合っておりますが、近年、「どうしてもこの仕事に就きたい」という意気込みを持った学生さんが少なくなったように感じます。実際の現場で必要な技術は学校だけで習得できるものではありませんが、その魅力・楽しさをお伝えいただき、専門職に夢を持った「若きつくりびと」を多く輩出していただきたいと思います。

・教職員の研修も外部のオンライン研修などを活用してはいかがでしょうか。外部のコンテンツを利用することで学内コンテンツを増やすヒントになるのではないかと思います。

・コロナ禍において進路決定率が上がったことは素晴らしいことであったが退学率が上がっている学科が気になりました。

・株主総会もオンラインの時代ですので保護者会もオンラインで出来たのではないのでしょうか。

・工学院の名前に合ったネットワーク、ICT等の環境を整えて上げてください。

・時節柄、授業を実施する事や様々な学生支援に工夫をされている事が十分に理解する事が出来、いつものことですが、感心させられる事ばかりでした。今後は、学生への「心のケア」をして頂ければと思います。メンタルトレーニング的なものも取り入れてもいいかと思えます。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. コロナ禍において、教育目標に掲げる「学生中心主義」を教職員一丸となり実行する。
2. 学生・保護者からの要望に応えられるよう、今後とも万全な体制を整える。
3. 質の良い授業(オンライン授業含め)を提供できるよう、教員のスキルアップのための研修等を充実させる。
4. withコロナの新しい時代における高専連携・地域貢献・地域連携を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	医療 企業等委員

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和4年9月30日

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和3年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

(3)情報提供方法

ホームページ

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程ロボット科)令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル1	社会人として必要な、ビジネス文書の書き方、行動・人間関係の構築、仕事への態度・心構え、知識・資料の活用などについて学習します。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			ビジネススキル2	就職に必要なマナーや一般常識などを学び、就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。	1・後	30	2	○			○		○		
3		○		キャリアデザイン1	就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身につけます。資格取得やボランティア活動などを単位認定します。	1・通	30	2	○			○		○		
4	○			パソコン実習	社会人として欠かすことのできないコンピュータスキルを学びます。WindowsやOfficeの使い方、インターネット利用上のマナーなどについて学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
5		○		スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。また、マナーや協調性などの社会的スキルの向上を目指します。	1・通	30	1			○	○	○	○		
6	○			ロボット入門	ロボットの全般、特に機種、特徴について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
7	○			エレクトロニクス1	ロボットを動かすために必要な、エレクトロニクス技術について学びます。直流回路や交流回路、静電気など基本技術を学びます。またトランジスタやICなどの半導体技術についても学びます	1・前	30	2	○			○		○	○	○
8	○			エレクトロニクス2	ロボットを動かすために必要な、エレクトロニクス技術について学びます。直流回路や交流回路、静電気など基本技術を学びます。またトランジスタやICなどの半導体技術についても学びます	1・後	30	2	○			○		○		
9	○			デジタル回路	ロボット制御の基本となるデジタル技術、2進法や論理回路などについて学びます。	1・前	30	2	○			○		○	○	○
10	○			メカニクス1	ロボットの設計や製作に必要な、機械や材料の基礎知識を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
11	○			メカニクス2	ロボットの設計や製作に必要な、機械や材料の基礎知識を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
12	○			プログラミング1	ロボットへの動きを指示するコンピュータプログラム(ソフトウェア)の基本から、その考え方、作り方について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
13	○			マイコン1	ロボットやさまざまな機器を自在にコントロールするために使われているマイクロコンピュータの基礎について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
14	○			機械製図	ロボット製作に欠かすことのできない設計図の読み方や書き方を学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
15	○			3D-CAD実習1	ロボットや機械の設計に欠かすことのできない3D-CADソフトの使い方や応用方法について実習形式で学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
16	○			テクノロジー実習1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○	○		○	○	○
17	○			テクノロジー実習2	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○	○		○		
18	○			ロボット製作実習1	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要基礎技術について実習し、機械加工や電子回路組み立てなどを体験します。	1・後	90	3			○	○		○	○	○
19	○			ロボット制御実習1	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎について実習形式で体験的に学びます。	1・後	90	3			○	○		○		
20		○		ロボット応用実習1	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	1・通	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(工科技術専門課程ロボット科)令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
21		○		ロボット応用実習2	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	1・通	30	1			○	○		○		
22	○			プレゼンテーション1	面接試験対策など、就職活動で必要になる自己表現力を身につけるために必要な事柄について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
23	○			プレゼンテーション2	社会人として必要な知識や自己表現力を学びます。面接試験対策など、就職活動で必要になる事柄について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
24		○		キャリアデザイン2	就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身につけます。資格取得やボランティア活動などを単位認定します。	2・通	30	2	○			○		○		
25		○		スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。またマナーや協調性などの社会的スキルの向上を目指します。	2・通	30	1			○	○	○	○		
26		○		二足歩行ロボット1	2足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
27		○		二足歩行ロボット2	2足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
28	○			ロボット技術1	ロボットやさまざまな機器に使われているセンサーの基礎と周辺技術について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
29	○			ロボット技術2	ロボットやさまざまな機器に使われているアクチュエータ(モーターなど)の基礎と周辺技術について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
30		○		メカニクス3	ロボットの設計や製作に必要なメカの基礎と応用について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
31		○		バイオロボティクス	生物の動きのしくみと、それを実現する方法を学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
32	○			ロボット制御1	ロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
33	○			ロボット制御2	ロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
34	○			プログラミング2	プログラムを応用してロボットを動かす方法などについて学びます	2・前	30	2	○			○		○		
35	○			マイコン2	ロボットやさまざまな機器に使われているマイコンの応用について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
36		○		人工知能	ロボットなどに使われる人工知能全般と、しくみについて学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
37		○		パーソナルロボット	産業用ロボットではなく、福祉・医療分野やビジネス分野におけるロボットの現状や将来について学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
38	○			ロボット製作実習2	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要基礎と応用技術について実習し、実際にロボットを製作します。	2・前	90	3				○	○	○	○	○
39	○			ロボット製作実習3	卒業製作としての位置付けで2年間の学習の総まとめとして、高度な機能を持ったロボットの設計と作り方について実習し、実際にロボットを製作します。	2・後	90	3				○	○	○	○	○
40	○			ロボット制御実習2	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎と応用について実習します。	2・前	90	3				○	○	○		

授業科目等の概要

(工科技術専門課程ロボット科)令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
41	○			ロボット制御実習3	基礎を身につけた上で、より実践的な技術、ロボットを動かすプログラムなどについて実習します。	2・後	90	3			○	○		○	○	○
42	○			3D-CAD実習2	3D-CADを使ってロボットや機械を設計する手法について、さらに詳しく実習形式で学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
43		○		ロボットコンテスト	自分たちで作製したロボットを用いて競技会を行います。	2・後	30	1			○	○		○		
44		○		ロボット応用実習3	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	2・通	30	1			○		○	○		
45		○		ロボット応用実習4	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	2・通	30	1			○		○	○		
合計						45科目	1950単位時間(91単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1500時間(68単位)および選択科目210時間(8単位)以上取得し、合計1710時間(76単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
(留意事項)	1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。